

インドネシアのモーターショー

～復調が期待されるインドネシアの自動車市場に弾みをつけるか～

割石 俊介

<今年も販売台数100万台以上期待されるインドネシア市場>

インドネシア GAIKINDO（自動車製造業者協会）が主催する「第25回国際オートショー」が8月10～20日に開催され、多数の車が世界の主要自動車メーカーより出展されました。

インドネシアでは2017年上半期（1～6月）の自動車販売台数が53万台。年間100万台超の勢いで推移しています。2016年通年では106万台でしたのでほぼ同様のペースですが、資源価格の持ち直しによる商用車需要の拡大が見込めることもあり、2017年通年では昨年を越えることが予測されています。

<三菱自動車の注目株は順調なスタート>

今回の目玉の一つは三菱自動車のMPV（ミニバン）であるXpander。同社がインドネシアに新規設立した工場にて製造された、インドネシア発世界仕様の車です。同社の乗用車では従来からPAJERO Sportが人気ですが、インドネシアで最もポピュラーなタイプであるMPVに三菱ブランドが現地製造で参入することで事前に大きな話題になっていました。あの話題のXpanderを見てみたい、乗ってみたいということで大変な混雑で、筆者の目測ではこのコーナーが最も集客が多かったです。650億円を投資し設立した同社の新工場から送り出される同車が各社のMPVが凌ぎを削るインドネシア市場で成功するかどうか、非常に注目されますが、モーターショーにおける人気度を見る限りでは順調な滑り出しを見せたといってよいのではないのでしょうか。



（Xpander 筆者撮影）

<赤一色のマツダ>

マツダのコーナーは赤一色の大迫力。一台を除き全てがソウルレッドで会場の注目を集めていました。マツダは昨年販売会社がインドネシアから撤退しましたが、その後シンガポールの高級外車ディーラーであるユーロ・カーズが販売を引き継ぐ形でインドネシアにおけるビジネスを継続しています。2017年上半期の同社販売台数は1,593台で前年同月比50%となっていますが、モーターショーでのインパクトある展示がリバイバルに繋がるか、今後に期待したいと思います。



(MX-5 筆者撮影)

<徐々に存在感を増す日本以外の車>

インドネシアは日本車が90%超の圧倒的シェアを占めるマーケットですが、BMW やベンツなどの欧州車は所得水準の高まりとともに徐々に販売台数を伸ばし、存在感を増しています。加えて、今年7月より現地工場にて生産を開始した三菱（ウーリン、上海汽車と GM などの合弁）も低価格のミニバンを展示し、メディアの注目を浴びていました。中国では同ミニバンは年間70万台以上売れているとのことですが、廉価なミニバンを求める層にどのくらい遡及できるか、日系企業主導のMPVマーケットに風穴を開けられるか、今後の動向に注目です。